

建設物価 建設資材物価指数[®] 2024年6月分 【速報】

建設物価 建設資材物価指数は、建設資材の総合的な価格動向を明らかにすることを目的に作成されており、その対象を建設工事で直接的に使用されている建設資材に限定した物価指数です。なお、本指数は2015年平均を100として算出しています。

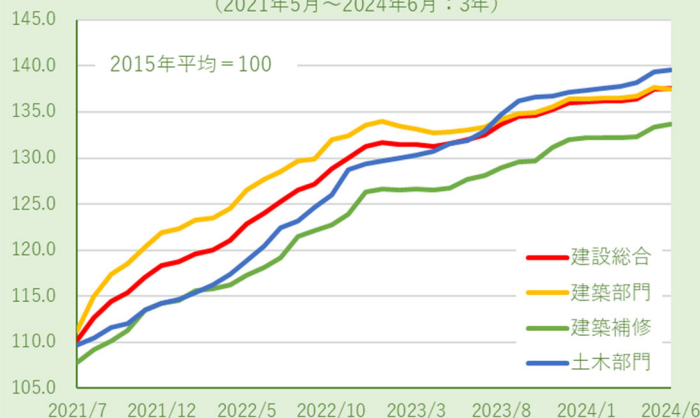
1. 指数の動向（全国平均）

6月の建設資材物価指数の動向は、**建設総合**(全国平均)が**137.5**となり、前月比+0.1ポイント(+0.1%)と**14カ月連続の上伸**となった。前年同月比では+5.5ポイント(+4.2%)となった。

部門別では、**建築部門**が**137.5**となり、前月比-0.1ポイント(-0.1%)と**3カ月振りの下落**となった。前年同月比では+4.4ポイント(+3.3%)となった。**建築補修**が**133.7**となり、前月比+0.4ポイント(+0.3%)と**3カ月連続の上伸**となった。前年同月比では+6.0ポイント(+4.7%)となった。**土木部門**が**139.6**となり、前月比+0.2ポイント(+0.2%)と**2020年5月以来49カ月連続の上伸**となり、**最高値を更新**した。前年同月比では+7.6ポイント(+5.8%)となった。

建設資材物価指数【全国平均】

(2021年5月～2024年6月：3年)



2. 前月比寄与度（大分類別・全国平均）

【非鉄金属】電線・ケーブル

メーカー各社が主原料である銅価格の高騰に加え、輸送コストや人件費の上昇を背景に値上げを実施したことが指数動向のプラスに寄与した。

【金属製品】高力ボルト・P C鋼より線

製造・輸送コストの増加を理由にメーカーが打ち出した値上げが浸透し、指数動向のプラスに寄与した。

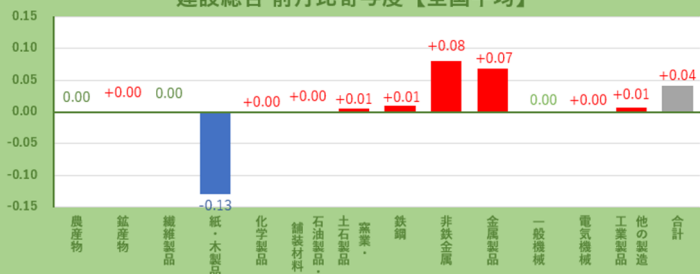
プラス寄与

マイナス寄与

【紙・木製品】一般建築用木材

住宅需要の低迷を背景に、国産の製材市況に荷余り感が台頭し、販売店間での受注競争の激化による値崩れが指数動向のマイナスに寄与した。

建設総合 前月比寄与度【全国平均】



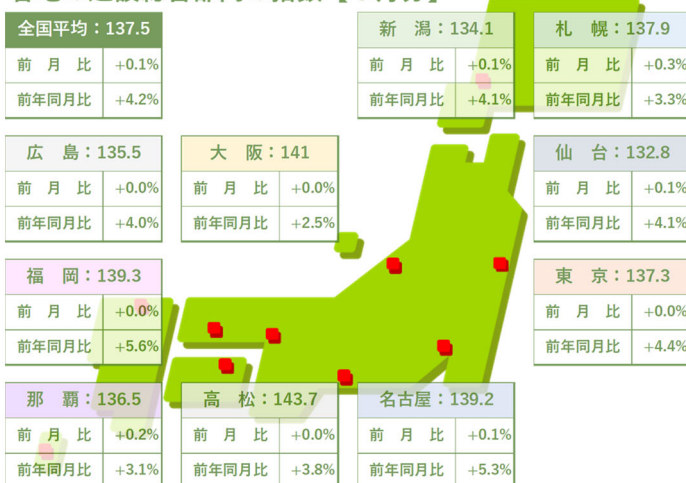
建設総合 前年同月比寄与度【全国平均】



3. 都市別の動向（建設総合部門）

電線・ケーブル価格や金属製品価格の上伸が全国的に指数動向にプラスに寄与する一方で、国産の木材価格の下落がマイナスに寄与した。各都市での指数動向をみると、【札幌】(前月比+0.3%)では、元売りの仕切り価格引き上げを転嫁した燃料油価格の上伸が指数動向にプラスに寄与した。札幌では、木材市況が本州とは異なり、木材価格が下落しなかったことから、マイナスに寄与する要因がなく、プラス変動となった。札幌同様に【那覇】(同+0.2%)でも、木材価格が下落しなかったため、指数動向はプラス変動となった。【大阪】(同+0.0%)や【名古屋】(同+0.1%)では、異形棒鋼の値上がりりがプラスに寄与したが、木材価格の下落が打ち消す形となり、小幅でのプラス変動となった。

各地の建設総合部門の指数【6月分】



一般財団法人

建設物価調査会

【指数に関するお問合せ先】

総合研究所 経済研究課 担当：若澤

TEL：03-3663-7235 E-mail：econ@kensetu-bukka.or.jp

【資材価格に関するお問合せ先】

調査統括部 調査統括課

TEL：03-3663-3892 E-mail：toukatsu@kensetu-bukka.or.jp